



沿岸地域自主防災会のご意見

東日本大震災を受け、沿岸地域自主防災会長との意見交換を行いました。

会議で出されたご意見やご要望を順次紹介しています。

■見能林地区

- （4月22日・見能林公民館）
- ・避難所・避難経路の整備
- ・防災無線の整備
- ・避難勧告・避難指示の周知
- ・避難情報等の連絡体制の構築
- ・避難時の津乃峰スカイライン 通行無料化

※次号では、福井・橘地区を紹介します。

総合防災訓練を実施します

地域住民の防災意識の高揚、地域防災力の向上および防災関係機関の連携強化による災害対応能力の向上を図るため、総合防災訓練を実施します。

訓練は、南海地震による被害を想定して、東日本大震災の教訓も取り入れながら、住民が主体的かつ実践的な内容で行う予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。

日時 8月28日(日) 午前7時～11時

場所 福井小学校（主会場）

訓練内容

▼午前7時～9時
福井各地区で津波の来襲を想定して避難訓練を行います。

▼午前9時～11時過ぎ
福井小学校で訓練を行います。

- ①避難所への避難訓練②消防分団現地指揮所開設訓練③ヘリによる避難広報および対空メッセージ作製訓練④初期消火訓練⑤倒壊家屋からの負傷者救出・搬送訓練⑥応急処置訓練⑦消防分団消火訓練⑧体験・見学・PRコーナーの設置

問い合わせ先 市民安全局（☎22-9191）へ

安全で安心な学校施設へ 耐震化が進んでいます

耐震化の取り組み

平成20年度から取り組んでいる耐震補強工事については、昨年度、羽ノ浦小学校、桑野小学校、岩脇小学校、平島小学校、吉井小学校、阿南第二中学校で耐震補強工事を実施したところで、平成22年度末現在の耐震化率は、78・4%となっております。

今年度は、見能林小学校、今津小学校、羽ノ浦小学校で耐震補強工事を実施し、計画では、平成24年で耐震補強工事を終了したいと考えています。

また、校舎改築工事については、阿南第一中学校では、既に普通教室棟と特別教室棟の建設を完了し、現在、管理棟の建設に取りかかっています。今後、平成24年度の早い時期に既存校舎棟の解体を行い、平成25年度までに外構整備を含めすべてを終えることとしています。那賀川中学校についても、平成22年12月から校舎棟の建設を行っており、校舎棟完成後、武道場建設や既存校舎の解体を行い、同じく平成25年度までには工事を完了したいと考えています。阿南中学校については、現在、校舎改築の実施設計を行っているところです。

今後とも、厳しい財政状況が予想されますが、東日本大震災の被災状況を受け、早急に耐震化事業を完了し、児童生徒の学校生活での安心安全を図っていきたくと考えています。市民の皆様、また、児童生徒、保護者の皆様には、工事情間中、何かとご迷惑をおかけしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、各学校施設の耐震性能一覧については、

学校施設の耐震化の進捗状況

（平成23年3月31日現在）

学 校 数	全 棟 数		耐震補強が必要と見込まれる棟数※		うちH23実施予定分（改築工事を除く）			
	(棟)	(㎡)	(棟)	(㎡)	(棟)	(㎡)		
小学校	22校	校舎	53	54,921	7	9,703	3	7,363
		屋体	22	15,648	3	1,708	0	0
		計	75	70,569	10	11,411	3	7,363
中学校	10校	校舎	30	36,082	10	18,417	0	0
		屋体	14	12,388	6	6,151	0	0
		計	44	48,470	16	24,568	0	0
幼稚園	9園	園舎	6	3,464	1	365		
		計	6	3,464	1	365		
合 計	41校・園	校舎	83	91,003	17	28,120	3	7,363
		屋体	36	28,036	9	7,859	0	0
		園舎	6	3,464	1	365		
		計	125	122,503	27	36,344	3	7,363

※平成22年度末時点の状況です。中学校については、今後改築予定の棟数も含んでいます。

市のホームページに掲載しています。
問い合わせは 教育委員会総務課（☎22-3299）へ



被災者インタビュー

福島県郡山市でアクセサリー店を営む福島さんご夫妻。3月11日に発生した地震で、郡山市内にある店舗や住宅に大きな被害を受けました。余震そして放射性物質という見えない恐怖に怯える生活を強いられ、止む無く県外避難を決意。東京、大阪と転々とした後、3月20日から18日間、阿南市羽ノ浦町で滞在されました。

した。兄からは、電波時計が6時間も狂っていたという話も聞きました。まさに天変地異。身の毛がよだつ思いがしました。

錯綜する情報に身の危険を感じ、県外へ避難

福島原発事故では、放射性物質という見えない恐怖に不安と緊張を強いられ、私たちは、いったん故郷を離れることにしました。友人や知人と相談し、悩んだ末での決断です。ガソリンも残り少なく、とにかく行ける所まで行こうと宇都宮まで車を走らせました。その後、新幹線で東京、大阪と転々となりました。東京に向かう新幹線は避難する人であふれかえり、新大阪駅周辺のホテルは避難してきた人で満室状態でした。

避難する間は、マヨネーズさえあれば葉っぱでも食べばいい、そのくらいの危機感があり、精神的にも追い詰められた状態が続きました。

阿南では、以前、夫が勤めていた会社の部下の方のご厚意で、滞在させていただくことになりました。私たちにとって、この2週間余りは、精神的苦痛から開放されただけでも救いとなりました。感謝しています。

福島ご夫妻は、震災で受けた心の傷が癒されないなか、勇気を持って話してくれました。穏やかでない心中を察すると心が痛みます。

4月6日、2人は、注文をいただいたお客様に商品を届けなければいけないので、と阿南を後にしました。店の再開の目途は立っておらず、地震や放射能への恐怖心がぬぐいきれていない状況での帰郷。それを見送るだけしかできない私たちの無力感を、ただただ感じるばかりでした。

(聞き取り 4月4日)

被災者のメッセージ

震災に備えて

5月6日から15日までの間、災害派遣支援員として宮城県気仙沼市大島で支援物資の仕分け等の作業を行いました。支援物資の量は少なくなっていました。物資が入った箱に支援者が書いた「応援しています」の言葉を読み涙ぐむ島民もあり、支援者から被災者へ一緒にがんばっていきましょうという思いは確かに届いていました。

大島では、電気・水道が一部を除いて復旧していましたが、島の沿岸部では地震・津波の影響で崩壊した住居の残骸、分断された道路の光景が地震の残酷さを物語っていました。

また、被災者の体験談として、毎日のように復興活動を行っている地元職員は「運転中に車ごと津波に飲み込まれたが奇跡的に生き残った。」と話していました。被災地では多くの方が犠牲になっていますが、現在、復興に向け活動している人の中にも、後少して命を落としていたかもしれ

れない人がたくさんいるのではないかと感じました。

今回のような緊急事態が発生した場合、何が大切になってくるのかを考えたときに地元の方の話を思い出します。その話は、「島内で大規模な火災が発生した際に、要請した自衛隊の消火活動が始まる前に島民が一丸となり消火活動を行い延焼を防ぐことができた」という内容です。

南海地震発生による被害が阿南市では懸念されています。そのような緊急事態が発生した際は、大島での消火活動のように地元住民の繋がり、自主防災組織が重要になってくるのではないかと考えています。

農地整備課

技師 福田 佳典



支援物資を仕分けるようす。

地震の予兆、天変地異、身の毛もよだつ自然現象

地震直後、それまでの空模様が一変して大雪となりました。その夜、新潟方面の雲がピンク色に染まり、翌朝、新潟や長野で震度6の地震が発生。他にも、店の蛍光灯が青白く半分点いた状態になったり、飛行機雲とは明らかに違う無数のすじ状の雲が現れたり、普段ではありえない現象が数多く見られま

記憶にないほどの長い揺れ

震災当時、私たちは、郡山駅周辺のビルの2階にある店舗にいました。どれだけの間揺れたのか記憶にないほど長い地震でした。身の危険を感じた私たちは、部屋を出て階段の踊り場でうずくまり、同じビルの入居者と身を寄せ合っていました。ようやくの思いで外に出てみると、ビルから飛び出してきた人たちが街は騒然となっていました。道路はひび割れ、コンクリートの外壁が散乱、一部ではマンションが倒壊。その間も絶え間なく余震が続いていました。